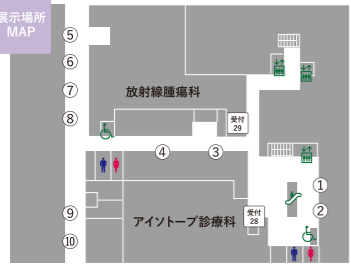


B1F

癒しを感じる×空間を明るくする

窓のない地下空間を
明るい印象に変える作品や、
検査・治療前にした不安な気持ち
がやわらぐような作品を展示しています。



one point column

おもちゃ作りに生涯をかけた 「おまけ博士」こと宮本順三

宮本順三/ZUNZO(1915~2004年)は大阪に生まれ、幼少時から玩具と絵に興味を示していました。彦根高等学校(現・滋賀大学)時代には、美術部をつくり、中之島洋画研究所へ通うなど、絵画制作に励みました。1935年、グロコ株式会社に入社し、念願の「おまけ博士」となった宮本は子どもたちを審査員に迎え、日本と世界の玩具を参考にした約3,000種のおもちゃをデザインしました。1960年頃からは、画家として童謡風の「祭りと踊り」をテーマに鶴巻、サロンド・パリ受賞、サロンドートヌヌ、ル・サロンヤナショナル・デ・ボザール入選など、精力的に活動し、多くの作品を残しました。1998年に「豆玩舎ZUNZO(おまけやズンゾ)」を開館し、作品(グロコのおもちゃと絵画)と世界を旅して集めた人形・玩具・仮面などの民族文化コレクションを多数展示しています。

展示作品リスト

- ① 宮本順三《チベットの雪頓節》1986年(大阪国際がんセンター所蔵)
- ② 宮本順三《青海の祭り》1988年(大阪国際がんセンター所蔵)
- ③ 荒川修作《WEIGHT WITHOUT PLACE NO.2》1981年
- ④ 荒川修作《DISTANCE OF FORMING / MODEL BY MODEL / THE》1980年
- ⑤ 今井高嶺《花草》
- ⑥ 今井高嶺《緑浄花明》
- ⑦ 今井高嶺《黄花齐放》
- ⑧ 今井高嶺《チングルマの妖精》
- ⑨ 今井高嶺《遍地開花》
- ⑩ 今井高嶺《春和景明》

宮本順三

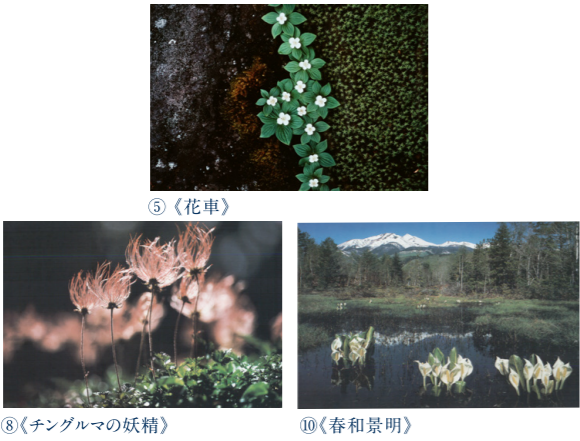
- ①《チベットの雪頓節》(左)
- ②《青海の祭り》(右)

「祭りと踊り」をテーマに、チベット族の伝統行事やチベット仏教の祭りの様子を色彩豊かに描いた作品群。窓のない地下空間に、光に溢れる空や人々の信仰や喜びを想起させるような作品を展示することで、彩りと賑やかで明るい空間を演出します。



今井高嶺

(いまいたかね 1942年 長野県生まれ) 1965年より教職に従事したのち、1971年にフリーランスとなりました。中部山岳国立公園において、動植物の生態に関する学術調査および撮影を行いました。「思っただけでも胸がときめく『秘蔵の地』の逍遙。その楽しみは何ものにも代え難く、大地の営みと出会う価値に満ちている。その瞬間、私は欣喜奮躍する」。今井高嶺のこの言葉のとおり、緻密に構成された画面によって、息をのむような瞬間を鮮明に写しとり、自然の営みの豊かさを感じさせる作品を残しました。



2F

「絵画公募プロジェクト」入選作品



建島哲氏、秋元雄史氏を審査員に迎えた、新進芸術家を発掘する絵画公募プロジェクト、公募作から、巨大なキャンパスの入選作品1点を選出しました。

まつながえみ 《アカツキワンダーランド》

※展示場所については2F展示場所MAPをご参照ください。

昼と夜の入り混じった夕暮れ時の光
風景が輝き出す瞬間
自然、空気、時間、出会った人々
いろいろなものから力をもたせて
前を向いて生きてい、
未来に向かって進んでいく。

作家プロフィール
2003年 森宮芸術科学大学芸術学部美術学科卒業
2005年 倉敷芸術科学大学大学院修士課程芸術専攻美術研究科修士
2005年 東京を中心に風風、グループ展を開催
2005年 森宮現代アートセンター(西日本・大阪美術展(岡山))FESチール賞
2006年 夢広場はるびビエンナーレはるび美術展(愛知)町民賞
2006年 5days JENAS FACTORY ART AWARD 2006 グランプリM展
高知文化プラザ かなほーと(高知)優秀賞
2009年 VOCA 上野の森美術館(東京)入選
2011年 SICF12(東京)入選

秋元 雄史(東京藝術大学名誉教授)

「アカツキワンダーランド」は、4.5m×2mの大作である。さつと診察室を満たさなければならないが、まつながえみは確かな技量で息事にくらべてきた時間帯の森を描いている。一種の幻想世界かなと思う、斜めから差し込む光が空間を満たして森全体に広がっていき、植物はシルエットになっている。朝を迎えるときの独特な静けさをもった時間帯。この作品は、診察室をつつ人たちの心を癒しとまとめてくれるに違いない。

大阪国際がんセンター「アートな病院プロジェクト」

2017年3月の移転・オープンにともない、「患者の視点に立脚したサービスの提供」の一環として「アートな病院プロジェクト」を立ち上げ、大阪府が所蔵する美術作品(大阪府20世紀美術コレクション)を外来および病棟の各フロアに展示しています。多くの方が来訪する2階および3階の外来には「アートストリート」を設け、主要な作家のアート作品を多数展示しています。

また、2階には新進芸術家の応募作品の中から入選した、横4.5m×縦2mの絵画(1作品)の展示を行っています。センター内の各所に芸術作品を鑑賞できる環境を設け、外来診察待ち時間やご入院中の患者さん、ご家族の方に鑑賞いただくことで癒し(精神的なストレスの軽減)を提供しています。



大阪府20世紀美術コレクション

大阪府では国内外の20世紀後半の美術作品を中心に、約7,900点におよぶ、さまざまな美術作品を「大阪府20世紀美術コレクション」として所蔵しています。「関西の現代作家コレクション」「世界の現代美術」「現代版画コレクション」「現代写真コレクション」など、絵画を中心に、写真や版画作品も多数あり、それらの管理と活用は大阪府立江之子島文化芸術創造センター[enoco]が行っています。enoco館内での年数回の企画展のほか、外部への貸し出しやアートコーディネートも積極的に行っており、医療機関では大阪精神医療センターなどにも作品が展示されています。

鑑賞に際してのお願い

- ・作品にはお手を触れないでください。
- ・作品や展示風景の写真・動画撮影はご遠慮ください。
- ・診察や検査へお越しの方の通行の妨げにならないようご注意ください。

表紙の作品: 木村嘉子(丸の作品(4))1965年 展示場所:2F(MAP④)

大阪国際がんセンターについて

当センターは、患者の視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発を理念に掲げ、都道府県がん診療連携拠点病院・特定機能病院として国内トップクラスの先進的ながん治療に取り組んでいます。また、国際的な医療貢献、次世代がん医療の研究開発、がん予防の取り組みを積極的推進しています。がんストレス対策としては、アート作品の展示、クラシックコンサートの開催など、患者さんの癒しにつながる取り組みを進めています。

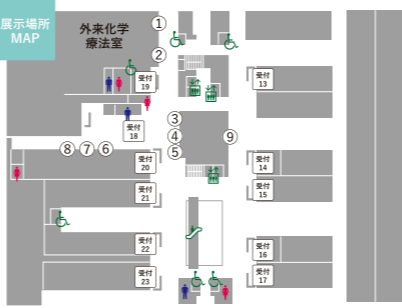
お問い合わせ

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター事務局
〒541-8567
大阪市中央区大手前3丁目1番69号
電話:06-6945-1181(代表)内線5105
FAX:06-6945-1900
https://oici.jp/
ガイドマップ企画・編集:大阪府立江之子島文化芸術創造センター [enoco]

2F

落ち着く×空間を広く感じさせる

このフロアでは「アートな病院」の顔となるような大阪府20世紀美術コレクションを展示しています。なかでも「関西の現代作家コレクション」と「版画コレクション」を展示し、訪れる方の心を生き生きとさせるような空間を演出します。



展示作品リスト

- ① 鈴鹿芳康《波B》1973年
- ② 鈴鹿芳康《波A》1973年
- ③ 中川佳宣《俯くピアニスト》1988年
- ④ 木村嘉子《丸の作品(4)》1965年
- ⑤ 伊藤継郎《子供の絵》1992年
- ⑥ 岩宮武二《氷海》1975年
- ⑦ 岩宮武二《氷海(小)》
- ⑧ 岩宮武二《氷海(中)》1975年
- ⑨ まつながえみ《アカツキワンダーランド》/大阪国際がんセンター「絵画公募プロジェクト」入選作品



③《俯くピアニスト》



④《丸の作品(4)》



⑤《子供の絵》

1F

癒しを感じる×
気持ちを明るくする

緊張感や不安な気持ちを癒すことができる
写真作品を展示しています。

展示作品リスト

- ① 岩宮武二《新緑(嵐山)》 ② 岩宮武二《苜(西芳寺)》
- ③ 山本建三《春雨に映える》 ④ 山本建三《初瀬の流れ》1988年
- ⑤ 山本建三《川辺の春》
- ⑥ 山本建三《北山杉のある風景》1987年 ⑦ 山本建三《晩秋》
- ⑧『BIG-i Art Collection 2013』公募入選作品展示

山本建三

(やまもとけんぞう 1925~2007年 大阪府高槻市生まれ) サラリーマン生活の傍ら、大阪府写真倶楽部に入会。1959年美術文化協会員に推挙されます。1959年小西六アトキヤラリー東京展を初展覧会として、以降全国各地で60回以上の写真展を開催しました。また自然風景・風土、歴史・生活文化を取材し、80冊以上の写真集を出版するなど精力的に活動しました。1962年、株式会社京都アトフォトを創立。風景写真の第一人者として活躍を続ける一方、アマチュア指導を目的とした「フォト倶」を設立し、写真界の向上にも尽力しました。和やかな日常のまごしを通して、四季折々の自然風景を写し出しています。



⑤《川辺の春》 ⑥《北山杉のある風景》 ⑦《晩秋》



障がいのある人たちの社会参加を進めるとともに、アートを通じ、共に生きる喜びを社会に発信するプロジェクト(2013年 主催:国際障害者交流センター ビッグ・アイ)の入選作品4点を展示しています。

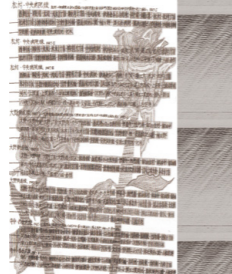
岩坂晋哉 ⑧《カラフルバラと理想のバス運行表》

その他の展示作品

マルコ・バルビエ
《ロッシェダム橋》

松本美千代
《籠》

タケル・ジュレスタ
《無題》



Osaka International Cancer Institute The Artful Hospital Project 2026



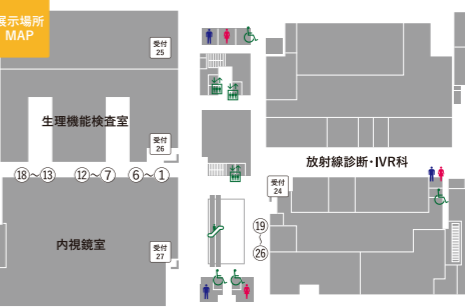
大阪国際がんセンター
「アートな病院」プロジェクト



3F

落ち着かせる×コミュニケーションを生む

さまざまな人が行き交う場所であることから
ユニークな造形で、患者さん同士や当センターの職員とも
会話のきっかけになるような、
豊かな色彩を感じさせる作品を展示しています。



展示作品リスト

- ① ロバート・メイブルソープ 《Flowers Portfolio(6点組)》
- ② ロバート・メイブルソープ 《Flowers Portfolio(6点組)》
- ③ ロバート・メイブルソープ 《Flowers Portfolio(6点組)》
- ④ ロバート・メイブルソープ 《Flowers Portfolio(6点組)》
- ⑤ ロバート・メイブルソープ 《Flowers Portfolio(6点組)》
- ⑥ ロバート・メイブルソープ 《Flowers Portfolio(6点組)》
- ⑦ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 A(12点組)》1974年
- ⑧ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 B(12点組)》1974年
- ⑨ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 C(12点組)》1974年
- ⑩ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 D(12点組)》1974年
- ⑪ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 E(12点組)》1974年
- ⑫ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 F(12点組)》1974年
- ⑬ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 G(12点組)》1974年
- ⑭ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 H(12点組)》1974年
- ⑮ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 I(12点組)》1974年
- ⑯ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 J(12点組)》1974年
- ⑰ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 K(12点組)》1974年
- ⑱ 服部三郎 《オルフェ様のお供の衆 L(12点組)》1974年
- ⑲ 前田藤四郎《ソネットロー》1959年
- ⑳ 前田藤四郎《冬(湖)》1963年
- ㉑ 前田藤四郎《湖岳》1965年
- ㉒ 前田藤四郎《湖畔》1967年
- ㉓ 前田藤四郎《虫》1967年
- ㉔ 前田藤四郎《たのしい日曜日》1972年
- ㉕ 前田藤四郎《花(梅)》1974年



⑩《紅》



⑳《湖畔》



㉓《たのしい日曜日》

前田藤四郎

(まえだとうしろう 1904~1970年 兵庫県明石市生まれ)

関西における創作版画の草分け的存在として知られる作家です。豪放で親しみやすい人柄でも知られ、関西画壇のなかで多くの人々に慕われてきました。版面に写真製版を取り入れた先駆的な試みや、夢や想像の世界を思わせる表現によって注目を集めました。木版・石版・銅版といったさまざまな版画技法を独学で身につけたら、のびやかで華やかな独自の作風を築いています。とくに、リノリウム版に油絵具を用いるリノカット技法を特色の一つとしています。

ここでは、廃材の木目を写し取るフロッタージュの技法を用いた作品や、新聞挿絵も手がけた前田ならではのデザイン性に富んだ造形、明るく豊かな色彩を楽しむ作品をご紹介します。